



令和4年 10月 14日  
第 481 号  
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

## 「いいよ。」と言える心～すでに学んでいる大切なこと～

校長 飯塚 進

先日、天気の良い日にグラウンドに行ったら、「いーれーて。」「いーいーよ。」という声が聞こえてきました。初めからそこにいた子どもたちは、鬼ごっこかドッジボールをやっていたようです。子どもたちのこのやりとりは、休み時間に時々聞こえてくる会話です。いつも「いいなあ。」と思って見えています。やさしさや仲のよさが感じられるからです。しかしながら、以前、学校カウンセラーの方から、この「入れて。」という言葉がすぐに言える子どももいれば、不安を感じて言えない子どもも少なからずいるということを知ったことがあります。友達関係に自信がない、あるいは遠慮がちの子どもの中には、躊躇してしまう子どももいるようです。私たちが配慮を要する場面です。

他にも、「ごめんね。」「いいよ。」というやりとりがあります。これも素直さややさしさを感じる会話だと思っています。こういう会話は、就学前の子どもたちか、1年生、2年生ぐらいまでの話ではないかと思われるかもしれませんが、しかし、よく考えてみると、この「ごめんね。」「いいよ。」のやりとりは、中学年、高学年になっても、そして、中学生や高校生、大人になっても大事なやりとりではないかと思うのです。さすがに大人になれば言い方はかえなければなりません。「どうもすみませんでした。」とか「この度は申し訳ありませんでした。」という謝り方になるでしょう。そして「いやこちらこそすみませんでした。」とか「お互い様ですので、お気になさらないでください。」などという言い方になるかと思えます。いずれにしても、よくないことをしたと思ったら、謝ること、謝られたら許すことが、大切なことだと考えています。

他にも、困っている人がいたら、「どうしたの?」と声をかけること、親切にされたら、「ありがとう。」と言うことなど、学校ではたくさんの会話が聞こえてきます。人と人とのかかわりの中で大切なこと、基本的なコミュニケーションの方法は、すでに学んでいると言っているかと思えます。

ただ、その時の感情や体調など、様々なことが関係して、分かっているけど謝れないとか、許せないとかいったことがあるのだと思います。それは誰にでもある感情かもしれません。そんな切なさやもどかしさにも共感しつつ、子どもたちのよりよい成長を目指して指導・支援をしていきたいと考えています。